

# クロコノマチヨウの飼育

谷川大海<sup>2</sup>

筆者は前号(39号)でクロコノマチヨウの採集について報告したが、母蝶に産卵させ、その一部を羽化させることが出来た。ここにその経過について報告する。

クロコノマチヨウ飼育経過表(1993年)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
産卵日	7/23	7/23	7/23	7/23	7/23	7/23	7/23	7/25	7/25	7/25	7/25	不	不	不	不
孵化日	7/27	7/27	7/27	7/27	7/27	7/27	7/27	7/29	7/29	7/29	7/29	不	不	不	不
蛹化日	8/15	8/16	8/20	8/20	8/20	8/20	8/21	8/25	8/27	8/27	8/28	8/28	8/30	9/7	9/11
羽化日	8/24	8/24	8/25	8/26	8/29	8/29	8/31	9/4	9/6	9/6	9/7	9/8	9/12	9/18	9/23
および	7:00-	7:00-													
時間	7:45	7:45	不	*8:30	*8:30	9:20	6:20	朝	7:44	10:23	8:50	9:34	7:57	6:00	16:48
場所	飼	飼	沼	沼	沼	沼	沼	林	林	林	林	林	林	庭	林
雌雄別	♂	♂	♂	♀	♀	♂	♀	♂	♂	♂	♂	♀	♂	♀	♀
食草	ジュ	ジュ	ジュ	ジュ	ジュ	ジュ	ジュ	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ジュ	ス
型	夏	夏	夏	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋
備考	標	放	放	放	標	放	標	放	越	標	越	標	越	越	標

注：不=不明、飼=飼育箱、沼=「沼の林床」、林=「林の林床」、庭=庭の鉢植のジュズダマ、ジュ=ジュズダマ、ス=ススキ、夏=夏型、秋=秋型、標=標本、放=放蝶、越=越冬、\*=頃。

- ★ 飼育場所は、室内の飼育箱、庭の鉢植、「林の林床」、「沼の林床」の4ヶ所（「林の林床」、「沼の林床」は筆者が名づけたもの）。
- ★ 庭の鉢植：ジュズダマを掘ってきて、鉢に植えたもの。
- ★ 「林の林床」：白土山の一角にちょうど競技場のような大きさの空き地がある（直径約250mの円形）。昔、白土を陶土として堀り出した後だそうだ。競技場に見立ると、トラックの部分に樹木が、フィールドの部分に草が生えているという具合である。樹木の主なものは、ヤナギ、ハンノキ、アカメガシワ、ニレ、シロダモ、ハゼ、ネム、ハギ等。草の主なものは、ススキ、メドハギ、ノバラ、オカトラノオ、イグサ、クズ、ヨモギ、ヒエ等である。水気が多いので下にはミズゴケが生えている。この樹木の茂る一角に「林の林床」がある。この林床内の樹木は幅の広い葉のヤナギ、ハンノキ、ハゼノキ、ニレ等。下草はササ、ススキ等である。水路があり真夏でも水がたまっている。林床内はかなり暗い。
- ★ 「沼の林床」：「林の林床」から道をはさんで、南に約500m離れた所にあり、池の一角に位置している。この池の3分の1は水草に覆われており、この水草の縁にこの林がある。林床は7月半ばまでは水で覆われており、セリが一面に群生している。8月以降は水が引き、セリは葉を落として茎だけになる。セリの上には代わってタニソバが勢力を増して、一面に生える。この林床に生えている樹木はヤナギ、ハンノキなどである。林縁の一部にジュズダマが生えており、その一部が林床内にも見られる。
- ★ 標本：展翅して標本にし、筆者が保管している。

2): 〒656 洲本市大野 1018-2

- ★ 放蝶：羽化後、「林の林床」に放す。
- ★ 越冬：来年春に卵を得るために、飼育箱の中で越冬を試みる。

次に飼育について、飼育後気がついたこと、疑問に思ったことを記す。

- ★ 卵は母蝶を「沼の林床」のジュズダマに袋がけにして産卵させた。思ったより簡単で、7/22 午後に袋がけにし、7/23 朝には産卵する。7/22 は晴、室温 28 度、7/23 も晴、室温 26 度。43 卵を得る。この母蝶はこの後すぐに、もとの「林の林床」に放す。7/26 に「林の林床」のススキの葉裏から 13 卵を発見する。他に♀は目撃してないし、その以前には卵も見えていないので、これらの卵は放蝶した同じ母蝶が産んだと思われる。色や孵化日から推測して、産卵日は放蝶の 2 日後、7/25 と思われる。43 卵からは 14 匹の幼虫が孵化。13 卵からは 11 匹の幼虫が孵化した。しかし羽化したのは 14 匹からは 7 頭、11 匹からは 4 頭であった。
- ★ 食草はジュズダマとススキを使用。ジュズダマの方を好むようで、齢の若い時ほどジュズダマの方が成長が早かった。成虫の大きさもジュズダマの方が大きい。特に室内の飼育箱で、ジュズダマを使った 2 匹は順調に成長し、♂であったということもあったが、一番早く齢が進み、羽化も早かった。

- ★ 「沼の林床」と「林の林床」ではともに袋がけ飼育をした。若齢の時は複数袋がけにし、5 齢からは 1 匹ずつにした。1 ケ所だけ 5 齢で 2 匹を入れたのがあったが、その 1 匹の頭部角状突起が 1 本になっているのを発見した。それ以後別々にしたが、この突起 1 本の幼虫も無事蛹化し、羽化した。

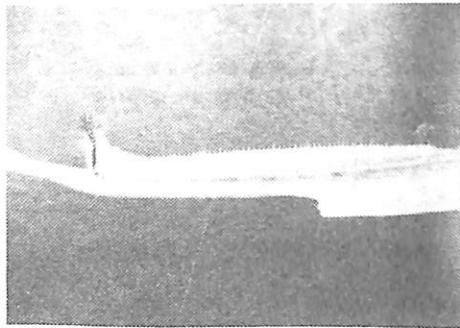


番号 7 番。「沼の林床」で、ジュズダマで袋がけ飼育。8 月 13 日撮影 (5 齢)。

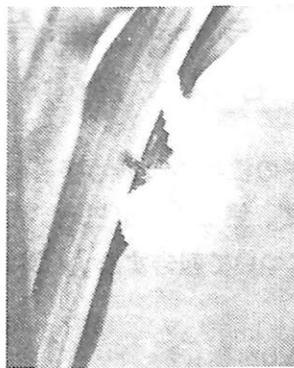
2 匹一緒に袋がけ飼育飼育していたのだが、他の幼虫と争って、角状突起を 1 本失ったものと思われる。

- ★ 型について。1 番から 3 番までが夏型の♂、以後羽化したのは全部秋型だった。同じ母蝶の卵で、孵化日も同じ、食草も同じ、気象条件もだいたい同じだと思われるのに、なぜ夏型と秋型が現れるのか。ススキ飼育のものはすべて秋型なので、全体を通じては秋型と言える。夏型の♀は現れなかった。当初は夏型が羽化したら、それに産卵させて秋型を得られればと思っていた。なぜこのようになるのかは疑問である。
- ★ 12, 13, 14, 15 番は飼育途中で、「林の林床」内でススキから発見した自然状態の幼虫である。その後、袋がけ飼育した。「沼の林床」からは自然状態の卵も、幼虫も見られなかった。

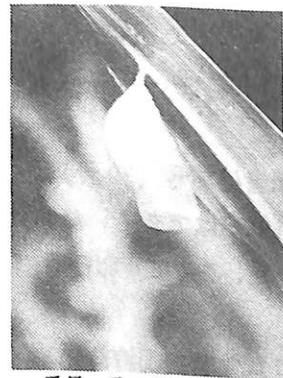
- ★ 、こに「林の林床」と「沼の林床」のちょうど中間地点でススキの葉裏から4齢幼虫1匹を発見した。袋がけをしていたが、5齢になった時逃げられてしまった。この林床では、この発見の数日前にボロボロの成虫♀1頭を採集している。ここから「沼の林床」までは成虫が楽に飛んで移動できる距離である(約150m)。「沼の林床」は見た目にはクロコノマチヨウのすみかとしては理想的だと思われる。樹木は大きく、林床内は十分暗く、食草のジュズダマは豊富にある。ヤナギの木には樹液が出ている。しかしここには、ヒカゲチヨウ、サトキマダラヒカゲ、ヒメウラナミジャノメ、キタテハ、キアゲハ、コムラサキ、ウスイロコノマチヨウなどは見かけたがクロコノマチヨウの成虫は見られなかった。越冬地として適当でないのかも知れない。あるいは天敵がいるのかも知れない。とにかくこれも疑問の一つである。
- ★ 飼育箱の中の1番、2番の2匹は終齢では体長がそれぞれ58mm、62mm、蛹は長さがそれぞれ22mm、23mmであった。ススキ飼育では終齢の体長が一番長いもので60mmであった。ススキ飼育では若齢幼虫の時は成長が遅々としていたが、終齢幼虫になってからは順調に成長し急に大きくなった。
- ★ 羽化時間について。1、2番は蛹化日がそれぞれ8/15、8/16だったが、共に蛹が黒くなったのは深夜だった。さては夜に羽化するのかと待っていたが、結局翌朝だった。15番以外の羽化は午前中であった。



番号2番. 8月9日  
終齢(5齢)になった直後.  
体長43mm.



番号2番. 8月15日  
10:00 a.m. 撮影. 前蛹.



番号1番. 8月15日  
10:00 a.m. 撮影. 蛹  
長さ:22mm 幅:9mm 高さ:10mm.

- ★ 15番について。秋型♀にしては小さい個体だった。蛹の時も小さかったが、羽化の時、黒くなってから羽化するまでの時間が他のものよりも長かった。また、羽化し始めてから羽が伸びきるまでの時間も長かった(残念ながら具体的な数字は測っていないので分からず)。蛹と成虫の大きさの比較を次に示す。

個体の 番号	蛹			成虫			
	長さ	幅	高さ	横	縦	雌雄	食草
15	18mm	7mm	8mm	64mm	50mm	♀	ススキ
7	23mm	10mm	11mm	83mm	63mm	♀	ジュズダマ

どうして15番だけがこのように小さいのか分からないが、これを発見したのは、「林の林床」の林縁だった。日光のさしているススキの葉裏で、ウスイロコノマチヨウの卵や幼虫がないか捜している時に見つけた。見つけた時は4齢だったので、小さいのには気にとめなかった（ススキで育った幼虫は5齢までは小さかったから）。発見後は他の幼虫と共に林床内のススキで袋がけ飼育をした。

★ 蛹は羽化一日前に飼育箱に取り入れて羽化を観察できるようにした。幸運にも数頭の羽化シーンを観察できた。全ては標本にしていけないので、翅裏の色しか比較できないが、同じ♀でも個体差が見られた。



番号2番。8月29日 9:20 a.m. 羽化。  
♂羽化直後撮影。

(たにがわ だいかい)

## コムラサキの飼育 谷川大海<sup>2</sup>

筆者は前号(39号)でコムラサキの採集について報告したが、観察の結果食樹を特定でき(同定はできていない)、卵も得て、第二化と第三化、合わせて4頭を羽化させることができた。ここに産卵行動、飼育経過について報告する(4頭をそれぞれA, B, C, Dとする)。

### コムラサキ飼育経過表(1993年)

A第2化	卵期	幼虫期 1齢-5齢	前蛹	蛹期	羽化
月日	7/14	7/21-8/25	8/26	8/27	9/3 ♀
日数	7	36	1	7	6:50 a.m.
備考	終齢幼虫の体長: 38mm 蛹の体長: 28mm				